

令和7年度 学力・学習状況調査／幸手市全体の調査結果概要

全国学力・学習状況調査（小6及び中3、令和7年4月17日（木）実施）と**埼玉県学力・学習状況調査**（小4～中3、令和7年5月8日（木）・5月12日（月）・5月13日（火）実施）の結果から見られた**顕著**な特徴をお示します。（保護者の皆様には、児童生徒に配付された個人票をもとに、良い点や伸びている力について家庭でもお話いただき、**今後の成長のきっかけ**としてご活用いただくようお願いいたします。）

1 学校生活に関する内容 ※その年度の県平均を超えている場合、水色色付き

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
⑦「ていねいな言葉づかい」	幸手市(R7)	86.8	89.7	95.0	94.4	95.7	96.6
	県(R7)	88.7	90.3	92.9	91.7	92.8	93.9
⑧「やさしい言葉づかい」	幸手市(R7)	87.4	89.4	90.8	94.0	93.7	93.4
	県(R7)	85.5	86.9	89.4	89.5	90.9	90.8

【県学調】質問調査「言葉づかい」

成果

◎「ていねいな言葉づかい」「やさしい言葉づかい」について、**ほぼ全ての学年で県平均を上回っている**。毎年度良好な結果であることから、学校生活の基盤である**道徳教育**等で培った**相手を敬う気持ち**が**醸成**されていることがうかがえる。引き続き、学校全体で言語環境の充実を継続する。

主体的・対話的で深い学びの実施						
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
幸手市	4.114	4.125	4.137	4.297	3.972	4.065
県	4.155	4.114	4.076	4.084	3.917	3.964
	-0.041	0.011	0.062	0.213	0.055	0.101

【県学調】質問調査「主体的・対話的で深い学びの実施」

◎授業では、児童生徒が**自ら学習**に取り組み、**友達と協調**しながら学んでいると受け止めている割合が**県平均よりも高い**学年が多い。また、**学習方略**や**非認知能力**の項目で、**県平均を超えている割合は77.1%**と**良好**な結果であり、家庭、地域と連携した各学校の取組が成果を挙げている。

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
⑤あいさつ	幸手市(R7)	79.4	85.4	82.5	89.7	86.1	83.0
	県(R7)	81.5	82.0	84.5	88.1	88.1	87.5

【県学調】質問調査「あいさつ」

課題

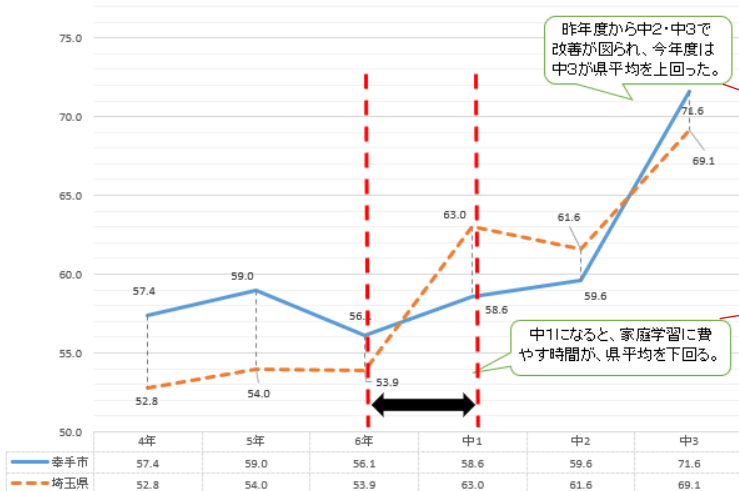
▲「**あいさつ**」について、県平均と比較し課題が見られる。特に、青年前期の発達段階に配慮し、あいさつの**意義**等について理解を深め、**家庭と共に習慣化**が図れるよう指導・支援を行っていく必要がある。

R7結果								
学習方略						非認知能力		
	柔軟な方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略		自己効力感	自制心
幸手市	3.817	3.799	3.592	4.067	3.806	-	3.808	3.992
県	3.774	3.767	3.585	4.068	3.904	-	3.799	3.971
	0.042	0.031	0.007	-0.001	-0.098		0.009	0.021

【県学調】質問調査「小4 学習方略・非認知能力」

▲**学習方略**や**非認知能力**では、粘り強くやり抜く「**努力調整方略**」にわずかながら課題が見られた。苦手意識を克服して最後までやりとげられるよう教師・家庭での指導・支援が必要となる。

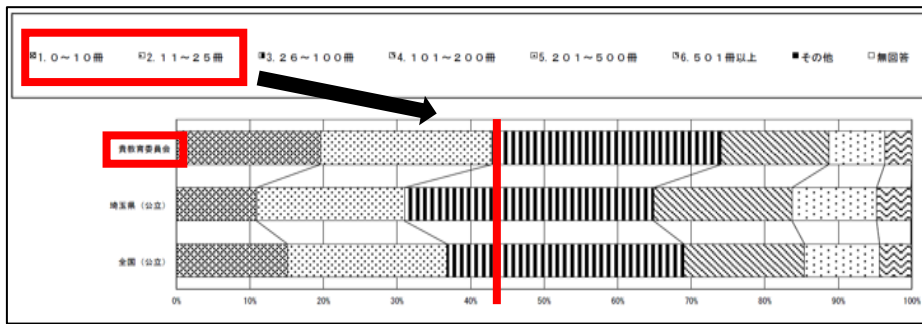
2 家庭生活に関する内容



【県学調】土日等、学校が休みの日に、1時間以上家庭学習をしている割合 %

◎学校の働きかけと家庭の支援により、昨年度以上に**中2・中3の家庭学習**について**改善**が図られている。特に**中3は県平均を上回った**。

▲**小学生は、家庭学習**にける**時間**が**県平均を上回っている**が、特に**中1では、県平均を大きく下回っており**、改善すべき重要な課題である。家庭学習の在り方について、**小中の接続**を意識して指導する必要がある。



【全国学調】質問調査「家に何冊本があるか」

▲家庭にある本の冊数が多い児童生徒ほど、学力階層が高いと指摘されている。家にある本が25冊以下と回答した割合は、全国平均が約37%であるのに対して、本市は約43%であり、全国平均を大きく下回っている。学校図書室の活用や家庭の読書環境の整備が重要である。

3 埼玉県学力・学習状況調査 平均正答率及び学力の伸び

	4年生		5年生				6年生			
	国語	算数	国語	伸び	算数	伸び	国語	伸び	算数	伸び
埼玉県平均正答率	52.5	66.2	62.8	3	48.3	2	59.3	2	52.4	2
幸手市平均正答率	50.4	64.5	61.0	2	46.7	2	55.4	1	50.9	2
県平均との差	△ 2.1	△ 1.7	△ 1.8	△ 1	△ 1.6	0	△ 3.8	△ 1	△ 1.5	0

2 調査結果(中学校)															
	1年生				2年生					3年生					
	国語	伸び	数学	伸び	国語	伸び	数学	伸び	英語	国語	伸び	数学	伸び	英語	伸び
埼玉県平均正答率	62.5	3	52.0	1	54.6	1	51.5	4	60.2	57.0	2	56.7	2	51.5	3
幸手市平均正答率	62.5	3	50.6	1	50.3	1	46.5	2	53.5	54.6	3	51.9	1	45.0	3
県平均との差	0	0	△ 1.4	0	△ 4.3	0	△ 5.0	△ 2	△ 6.7	△ 2.4	1	△ 4.7	△ 1	△ 6.5	0

4 全国学力・学習状況調査 平均正答率及び分布

	小 国語	小 算数	小 理科		中 国語	中 数学	中 理科 (RTスコア)
全国平均	66.8	58.0	57.1	全国平均	54.3	48.3	503
埼玉県平均	68	58	58	埼玉県平均	55	50	502
幸手市平均	66	55	54	幸手市平均	54	47	470

数値から見える成果と課題

【埼玉県学調】

◎課題であった中学生の学力の伸びが、県平均に近づいた。
▲小学生・中学生とも、県平均正答率より低い状況である。特に数学・英語が課題である。

【全国学調】

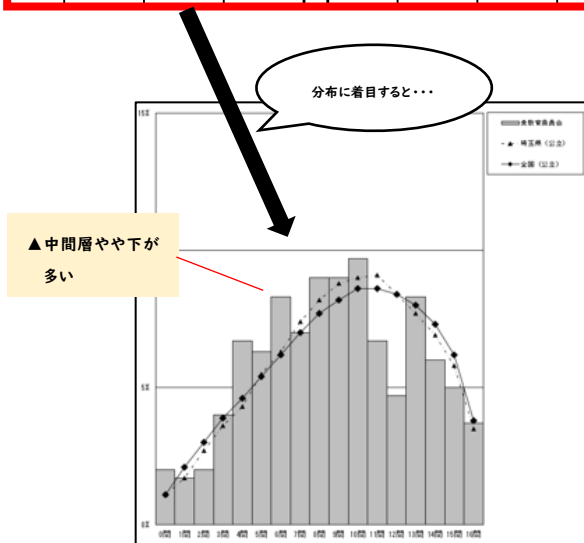
◎課題であった中学生の正答率が、全国平均に近づいた。
▲小学生・中学生とも、全国及び県平均より低い状況である。

分布グラフの整理と今後の取組

本市では、左の「小学校 算数」正答数分布グラフのように、全国や県の分布と比較すると、「中間層やや下の児童生徒の割合が多い」という特徴が見られる。

下位層が極端に多いわけではないので、「基礎・基本的な内容はある程度理解しているが、応用・活用的な問題に弱い」児童生徒が多いと考えられる。

そこで、①自分で調べたり、複数の考え方を比較したりする課題設定、②思考の「型」の定着、③ペア・グループでの対話的な活動の充実、④小さな成功体験の獲得（「できた!」を感じる）を意識した取組を進めていく。



【小学校 算数】正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

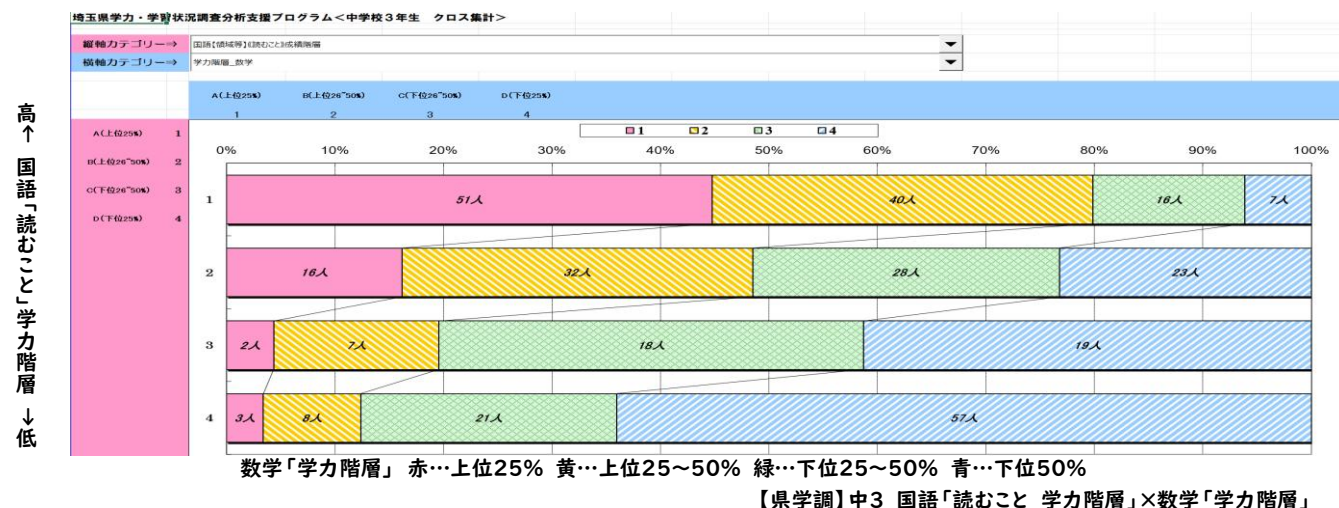
5 クロス集計分析と今後の取組

クロス集計分析とは、2つ以上の項目を組み合わせる分析方法である。この方法で学力調査結果を分析したところ、以下のような傾向が見られた。

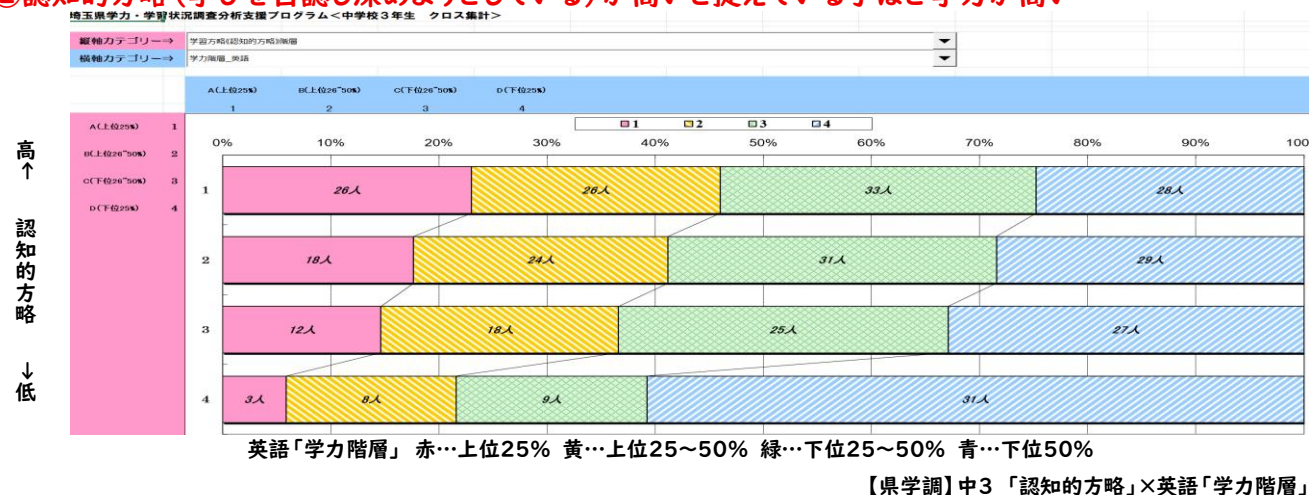
- ①国語「読むこと」が高いと他教科の学力も高い
- ②認知的方略(学びを自認し深めようとしている)が高いと捉えている子ほど学力が高い
- ③家庭での学習時間が長いほど、学力階層は高い傾向にある

これらの分析結果をもとにして、幸手市学力向上推進協議会で検討を図り、具体的な取組を進めていきたい。

①国語「読むこと」が高いと他教科の学力も高い



②認知的方略(学びを自認し深めようとしている)が高いと捉えている子ほど学力が高い



③家庭での学習時間が長いほど、学力階層は高い傾向にある

